

2026 年度
東京都立大学
大学院経営学研究科
経営学専攻 博士前期（修士）課程
（経済学プログラム）
入学試験問題（9 月入試）

2025 年 9 月 6 日（土） 13:00 ～ 14:30

試験科目：経済史・数学

注意事項

- ① 問題は、開始の合図があるまで、開かないこと。
- ② 答案用紙は二枚組になっています。二枚それぞれに、受験番号、氏名を書き、選択した科目名を明記すること。答案用紙が不足する場合は監督者に請求すること。
- ③ 数式・記号等以外は日本語で答案を作成すること。
- ④ 答案用紙はおもて面だけを使用すること。裏面は使わないこと。
- ⑤ 試験終了時には、問題・答案用紙・下書き用紙を机のうえに置き、監督者の指示があるまで着席していること。
- ⑥ 問題の印刷不明瞭、落丁・乱丁などに気が付いた場合には、ただちに監督者に知らせること。
- ⑦ 試験時間内は、トイレ・体調不良等の場合を除き、退室できません。
- ⑧ 問題、答案用紙、下書き用紙は、試験終了後回収します。
- ⑨ 下書き用紙の内容は、一切採点の対象になりません。
- ⑩ 経済学プロジェクトを希望する者は数学を選択すること。
- ⑪ 経済史プロジェクトを希望する者は経済史を選択すること。その際、問題 1、問題 2 のどちらか 1 つを選んで解答すること。また、答案用紙には選んだ問題の番号を明記すること。
- ⑫ 電子機器（電卓も含む）は使用しないこと。

A large rectangular area filled with a dense, repeating pattern of asterisks (*), resembling a textured background or a decorative border.

経済史 問題 1

以下の問題すべてに答えなさい。

1 16世紀前半、アメリカ大陸からの貴金属の大量流入以前に始まった「価格革命 (price revolution)」の初期インフレーションについて、当時のヨーロッパが直面していた貨幣的要因と実物的要因（人口動態など）の両側面から、有力な要因を複数挙げなさい。その上で、それらの要因がどのように作用し、持続的な物価上昇を引き起こしたと考えられるか、説明しなさい。

2 1870年前後からの欧米諸国における産業の変化の特徴とそこに関わっていたと考えられる制度的要因について、表を参考にしつつ説明しなさい。

表 世界の工業生産に占める各国の割合

国 \ 年	単位: %					
	1800	1830	1860	1880	1900	1913
イギリス	4.3	9.5	19.9	22.9	18.5	13.6
ドイツ	3.5	3.5	4.9	8.5	13.2	14.8
フランス	4.2	5.2	7.9	7.8	6.8	6.1
アメリカ	0.8	2.4	7.2	14.7	23.6	32.0
日本	3.5	2.8	2.6	2.4	2.4	2.7

出所) 河崎信樹・村上衛・山本千映『グローバル経済の歴史』(有斐閣, 2020年) 220頁。一部改変。

経済史 問題 2

以下の問題すべてに答えなさい。

1 戦前（1868～1945 年）日本の産業発展と教育の関係について自由に論じなさい。

2 表を参照しながら、1920 年代後半から 1930 年代にかけての世界綿布輸出市場の変化の要因と、その変化が 1930 年代日本の国際関係に与えた影響について論じなさい。

表 世界綿布輸出市場における日本とイギリス（年平均）

単位：100平方ヤード，％

	1926～28	1931～33	1936～38
イギリス	3,939 (46.1)	1,981 (33.3)	1,741 (27.0)
日本	1,442 (16.9)	1,845 (31.0)	2,511 (38.9)
総計（その他とも）	8,550 (100.0)	5,950 (100.0)	6,450 (100.0)

出所）杉山伸也『日本経済史：近世－近代』（岩波書店，2012年）383頁。

（原資料は，日本綿糸布輸出組合『日本綿業貿易小史』。）

注）数字は，綿布および綿織物の輸出量。（ ）内は％。

数 学

以下の問題すべてに答えなさい。

1 関数 $f(x, y) = 3x^2 + 2xy + y^2 - 8x - 8y$ について、次の問いに答えなさい。ただし、 x と y は実数とする。

- (1) x と y に関する偏導関数 f_x, f_y を求めなさい。
- (2) f の極大値か極小値があれば、それらをすべて求めなさい。極大値と極小値のどちらであるかを示し、その理由も示しなさい。

2 次の連立一次方程式を、係数行列 A とベクトル x, b を用いて $Ax = b$ の形に書き直しなさい。さらに、 A の逆行列 A^{-1} を求め、これを用いて x の値を求めなさい。

$$\begin{cases} x_1 + x_2 = 3 \\ x_1 + x_3 = -1 \\ 3x_1 + x_2 + x_3 = 4 \end{cases}$$

3 確率変数 X の分布関数が

$$F(x) = \begin{cases} 0 & x < 0 \\ 1 - \frac{1}{(x+1)^2} & x \geq 0 \end{cases}$$

で与えられている。このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) X の確率密度関数 $f(x)$ を求めなさい。
- (2) X の期待値 $E[X]$ を求めなさい。
- (3) X の中央値を求めなさい。

4 標本空間（全事象）を Ω とする確率空間を考え、事象 $X \subset \Omega$ の確率（事象 X が起こる確率）を $P(X)$ で表す。また、 X^c を X の余事象（すなわち $X^c = \Omega \setminus X$ ）とする。

ここである事象 $A, B, Y \subset \Omega$ に対して、 $A \cap B = \emptyset$ であるとし、これらに関する確率が

$$P(A \cap Y) = \frac{1}{24} \quad P(B) = \frac{1}{6} \quad P(Y|B) = \frac{3}{4} \quad P(Y \cap (A \cup B)^c) = \frac{5}{24}$$

であるとする。ここで $P(Y|B)$ は「 B が起きた条件のもとで、 Y が起こる条件付き確率」を表す。

このとき確率 $P(B \cap Y)$, $P(Y)$, $P(Y^c)$, $P(A|Y)$, $P(Y^c \cap B^c)$, $P(Y^c|B^c)$ を求めなさい。

[illegible]